



アドベンチャーライダーになるための遠い道のり アメリカで出会った彼は、世界を旅するADVライダーだった

遠くアメリカの地で、1人のアドベンチャーライダーと出会い、バイクの免許を取得した jasmine T Cardwellさん。それまでアドベンチャーライドはもちろん自分がバイクに乗ることなど、想像すらしていなかった彼女の奮戦ぶりをお伝えしよう。



jasmine T Cardwell

本名: 晃良(テルミ) Cardwell
愛知県豊橋市出身
カリフォルニア州 サンディエゴ在住
旦那様から影響を受けて、2011年にアメリカで自動二輪免許を取得。オレンジのF650GSで、アドベンチャーライダーを目指して特訓中。

「うん、超〜幸せ!」
能天気なそう答えると、マイケルが突然手続きを始めた。その展開の早さにつけに取られつつも、心の底から「免許を取って良かったなあ」と感じ、嬉しさと高揚感で子供のようにはしゃいだ。こうして私の人生初のバイクは、F650GSに決まった。だが、いきなり「転んだらどうしよう!」「不安を増やすタネに変わった。練習で慣れきたターンやリーンも、相馬を想いすぎる気持ちで、ふたたび上手く行かなくなっていた。そんなとき、マイケルがオフロードトレーニングの受講を勧められた。オフロードを体験することで、恐怖心を拭える手助けになる。けれど私には「舗装されていない道になんか行かなくさいいんだから、そんなの必要?」という思いが強かった。しかし、理にかなったマイケルの説得と、たくさん乗って慣れるに越したことはないとの考えから受講することに決めた。

訪れたのは、女性モトクロスライダーのいち時代を築き上げた、Bonnie WarnerとAndrea Beatiが主宰するピキナー向けライディングスクール。
プログラムの最初は、スタンディングポジションでのギアチェンジ。乗り始めこそエンストを起し、スタンディングに恐怖を感じたが、ボディポジションを変えたり、体重移動を練習したりするうちに次第に慣れてくる。さらにカウンターバランスを使ったターンの練習。休憩時間に、コーチと話をして和んだ後は、軽いアップダウンがあるオフロードコースへ。ボディポジションの変え方もだいぶコツを掴み、いよいよ5m前後の上り坂、下り坂を走る。しかし、急な下り坂を前にすると、恐怖心で立ち往生。コーチに励まされ、「転んだって少し怪我するくらいだし、ダートだからそんなに痛くない! 転んだら転んだとさ」と吹っ切れた瞬間、見事に急降下をクリア。と同時にライディングが妙に楽しくなってきた。

夫との出会いが私の人生観を180度変えた

私はこれまでの人生で「人の趣味に付き合う」ということを、一度もしたことがなかった。

そんな私に新しいトビラを開けるきっかけを与えてくれたのは、現在の主人、マイケル。出会いは2008年3月。彼は10年来のアドベンチャー(以下ADV)ライダーで、バイクをこよなく愛し、BMWのR1150GSとともに世界中を旅していた。そんな彼が2度目のワールドツアーを終えてアメリカに戻っていた時だった。

ADVライダーはもちろん、バイクのこともとまどまど知らなかった当時の私にとって、バイクで世界中を旅しているマイケルはとても変わったアメリカ人に映った。

しかし、マイケルとともにバイクに乗り始めたことが、私の人生に大きな転機をもたらし、結果、良くも悪くも刺激的で、見たことのない世界を目にするチャンスが訪れた。ただし、それがいかに難しく、忍耐

力が必要だったか……。そのバックグラウンドにあった葛藤を、紹介します。

乗れるようになること、バイクって意外に楽しい

私の免許取得のきっかけは、彼のリアシートでワインディングロードを走った際にバイク酔いをしてしまったことだった。「パッケンジャーでいつもグロッキーになるのはイヤ。自分で運転すれば酔わなくてすむじゃん!」

その経験が免許取得を決意させた。取得は、彼の勧めで計3日間のライディングコース「CSMP (California Motorcycle Safety Program) / 12時間の実技と4時間の筆記を受け、最終試験をパスすれば、日本ではいうところの免許センターでの実技試験が免除される」を受講することにした。

受講に使われた125ccのホンダ製クルーザーは、私にとって乗り易いサイズ。さらに普段からの運動好きと、学生の頃に原付に乗っていた経験が功を奏して、実技試

験は難なくパスした。ところが、筆記は語学の壁にぶつかり試験をパスするまで数ヶ月を要した(正直、興味の無いバイクに関する英単語や英文を学ぶのは苦痛だった。けれど、取ってしまえばこちらのものだ。免許取得後は、ルームメイトからシリングのF650GSを借りて、土日の昼間、マイケルの特訓を受けた。場所は、アメリカならではの広い空き駐車場。しかし、講習を受けてからしばらく経っていたため、操作系は薄ら覚え。それでも免許を取った喜びと高ぶる気持ちは抑えられず「早く乗りたい」と急かす。

「バイクは遊びじゃない! 危険がともなうんだから、最初は僕の言うことを聞かないと駄目だよ!」
……叱られてしまった。

「貴方の趣味に付き合っただけなのに何なの!」機嫌を損ねた私はそんなことを思っただけで、今となつては彼に申し訳ない気持ちで一杯だ。

その後の練習では、怖くてカーブをスムーズに曲がれない! こんなに大きなバイク

が倒れたら、潰される! 絶対ケガする!! 手に汗握り、「何でバイクに乗ることになっちゃったんだろう……」と何度も心の中で繰り返したし、時間の無駄とすら思えてならなかった。興味が無いということが、こんなにも物事を難しくするとは……。自分で自分を追い詰めていると分かっていても、どうしても笑顔になれない。

それでも好奇心に任せて練習を重ねていくと、身体が覚えてきた操作感覚と、マイケルの優しいコーチのお陰で、少しずつ乗れるようになってきた。ようやく「バイクって、楽しいかも」と感じられるようになり、数日後には、また乗りたいと思うまでになった。何とも、自分は単純な女だと思っ

晴天の霹靂?
突然やってきた相馬
※編集部注: 相馬=作者オリジナルの造語(大切なバイクの意)

練習を重ねた数週間後、マイケルに連れられサンディエゴのBMWディーラーに行

この日は受講者が私達だけで、マンツーマンだったこと、そしてコーチが女性だったことが私の恐怖心と緊張をほぐす大きな要因になってくれた。

そして帰りには、相馬がこんなに乗り易いバイクだったかと思うほど、自分のライディングが変化していた。オフロードコースの受講は確実に私のライディングテクニックを向上させていた。

以来、サザン・カリフォルニアの穏やかな気候も手伝って、積極的にバイクに乗る機会が増えていった。仕事の通勤手段も車からバイクに変えた。夜間でも一人で走行できるまでに慣れた。休みの日を利用して、マイケルと中距離ライディングに出かけることも多くなった。

そして何より、バイクの気持ち良さを感じる事ができるようになったことが、自分にとってマイケルにとっても驚きだった。

初めての長距離ライドは想像以上に過酷な体験だった

免許を取って9ヶ月。いよいよ初めてのADVライディングに出掛ける。

行く先は、カンブリアという小さな街で開かれるホライゾンズ・アンリミテッド・トラベラーズ・ミーティング(www.



土日はクルマが止まっていない広い駐車場を利用してライディングの練習。バイクはルームメイトのF650GS、先生は、マイケルが自ら買って出てくれた。

Horizons Unlimited.com)。そこには世界から、ADVライダーが集まり、しかもキャンプも体験するという。

自宅のあるサンディエゴからは、海沿いを北上、LAの先まで走ることになる。まだまだ遠出をする自信は無かったが、マイケルが一緒だし、なんとかかなるかな、という気持ちで臨んだ。

以下は、カンブリアに着くまでの忘れもしない、私とマイケルの一連のやりとり。

私：「今日は何処まで行くんだっけ？」

マイケル(以下、M)：「LAの北の方。カンブリアっていうところだよ」

私：「ふん。何マイルくらいあるの？」

M：「分からない」

私：「時間は？」

M：「4時間くらいかな」

(後にマイケルに聞いたところ、彼自身場所も距離も確認していなかったらしい。ADV歴10年以上の彼にとつては、大体の目安がついていたのだろう。この日の走行距離は345マイル=556km。あらためて何時間あれば走れる距離なのかをマイケルに聞いてみたところ、5時間との答え。では、4時間はどこから出てきたのか? ビギナーの女性ライダーと一緒に適当すぎでしょ!)

LAで工事渋滞に巻き込まれ、暑さとのるる運転にイライラが募ってくる。1時間後、ようやく渋滞を抜けた、その時点ですでにかなりの疲労。でも、先に進むしかない、自分に強く言い聞かせ、バイクを走らせる。

しばらくすると、サンタバーバラという看板が目に入った。そこがサンディエゴから、かなり遠いところで、LAよりもサンフランシスコ寄りに位置する街であることくらいは知っていた。おかしいなあ……。

私：「ねえ、サンタバーバラって看板出てきたけど、LAの北の方ってどこまでいくわけ？」

M：「もう少しだから頑張って！」

私：「あと何マイルくらいあるの？」

M：「分からない」

私：「ちょっと、GPSで何マイル分かるんじゃないの? 調べてよ！」

M：「うん、分かった。でも、とにかく、先に進もう！」

そんな会話の後の休憩で、

私：「ねえ、もう疲れたよ。まだ着かないの? 嫌になってきた」

M：「もう少し。だから頑張ろう」

私：「だから、あとのくらいかさつきから聞いているよね?」

遂にFワードが出てしまっ……

M：「あと……100マイル」

私：「は? 100マイル?」

緊張の糸が切れ、怒る気力も失い、脱力



人生初のバイクF650GS。ディーラーを訪れたその日に購入を決定。展開の早さに驚いたのもつかの間。新車のプレッシャーが私を襲うことになる。

感を感じた。時間は夕方6時すぎ。思い返せば、サンディエゴを出たのは、朝の8時。休憩を除いても、かれこれ7時間もライディングしている。なのに、まだ100マイルもあるとは!

私：「今からどのくらいかかるの?」

M：「あと2時間くらいかな」

私：「LAで、あと4時間って言わなかった? もうとっくに4時間なんて過ぎてるよね。どこまで走らせる気? もう本当に嫌だよ!!」

M：「……ごめん。予約してあるホテルまで行く? それともこの辺りで泊まる?」

私：「予約したホテルまで行く! もうどうなっても知らない!」

相対に不機嫌になった私は、いままらの優しい言葉に腹が立ち、鼻息を荒げた。

M：「分かった。じゃあ、まず50マイル行こう。」

私：「……」

結婚して以来、最高潮の不機嫌に達している私に、マイケルも少し引き気味。私は黙ってマイケルの後ろを必死に走っていた。するといろいろな感情が一気に溢れてきた。

「なんで自分の趣味でもないバイクに乗っているんだろ? なんでこんなに遠い所まで行くって言っちゃったんだろ? マイケルが経験させてくれようとしていることは有難いのに、頑張れない自分が悔しい。なんで

楽しく乗れないの?」

天使と悪魔、葛藤する気持ちと、自分の不甲斐なさが一気にあふれて、走りながら涙がこぼれてきた。マイケルに悟られたくなくて、しばらくは我慢して走ったけれど、ついにサインを出して、ハンパーガーショップの駐車場に入る。ヘルメットを取り、号泣している私を見て、

M：「OMG! な、なんで泣いているの!? OMG! ごめんね、ごめんね……」

僕は今の今まで、君がそんなに辛いなんて考えてもいなかったし、分からなかったよ。本当にごめんね。今日はもうこれ以上走らなくていいから、ホテルを探そう」

私：「ホテル、予約してあるんでしょ? キャンセル料取られるでしょ? 予約してあるホテルまで行く!」

感情の高ぶりは収まらず、意地だけで言うっていた。それに、この期に及んで、ほんの50マイルを妥協してキャンセル料を取られることが、非常にバカらしく思えてならなかった。そこから約1時間、夜の8時にようやくホテルに到着した。

後に聞いたら、マイケルはこの日のことがきっかけで、私がバイクを嫌いになってしまうのではないかと危惧したらしい。そしてこの時、私は「人の趣味に付き合うのは二度と止めよう」と心に固く誓ったのだ。



アメリカで女性オフロードライダーの地位を築いたアンドレア(左)とボニー(右)のオフロードライディングスクールを受講した。



最初はこわごわだったライディングだが、徐々に慣れて行き最後は5mほど落差のある下り坂もクリア。スクールのアドレスは、<http://www.coach2ride.com/>